

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 **新** 農作業分業化プロジェクト推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 野菜係 電話番号：058-272-1111 (内 2867)

E-mail: c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,958 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	1,958	0	0	0	0	0	0	0	1,958
決定額	4,000	2,000	0	0	0	0	0	0	2,000

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

産地は高齢化や労働力不足に直面しており、生産規模の維持・拡大には収穫調製作業のような短期間に人数を要する作業や種まき前の天井ビニール張りや土壌消毒のような重労働など、農業の律速段階となっている工程の解消が必要である。外部委託の活用で解決に挑むプロジェクトの結果を産地全体に波及させるため、効果の分析・普及を行う。

(2) 事業内容

【事業概要】

外部委託活用による経営への影響の評価
産地内・県内での啓蒙活動

【事業目的】

ほうれんそう・いちご・枝豆等の生産量の維持・拡大

(3) 県負担・補助率の考え方

野菜の産地は複数の市町村にまたがる広域的な取り組みであることから、県の財政負担は妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	50	現地説明会・成果発表会等
需用費	20	資料作成費等
役務費	10	
委託料	1,878	事業の経営分析
合計	1,958	

決定額の考え方

モデル事業であるため単年度実施として所要額を計上します。

また、本事業とは別の事業で要求された補助金（農作業分業化プロジェクト推進事業費補助金）については、本委託業務に組み込んで実施することとします。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「ぎふ農業・農村基本計画」

第5章 政策の方向性

- ◆ 3つの基本方針に基づく具体的な取り組み

2 売れるブランドづくり

＜基本施策＞（5）大消費地における県産農畜水産物の販路拡大

[高品質・ブランド価値向上]

ほうれんそう、えだまめ、夏秋トマトなどの主要品目について、安定的な売り場を確保するため、関西圏、中京圏での市場・流通関係者と連携した量販店等での販売促進活動を実施する。

(2) 後年度の財政負担

並行して実施する補助事業に併せ、3年間実施する。

(3) 事業主体及びその妥当性

産地は複数の市町村を含むため、岐阜県が実施することが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・外部委託の活用による規模拡大と経営改善が産地全体に波及し、外部委託が積極的に活用されるようになり、栽培へ労働力が集中し、産地の規模拡大が図られる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
		(R)	(R)			
夏ほうれんそう作付面積	807 (R元)	(R)	(R)	(R)	807 (R)	%
いちご作付面積	35 (R元)	(R)	(R)	(R)	35 (R)	%
えだまめ作付面積	125 (R元)	(R)	(R)	(R)	125 (R)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	作業の外部委託は限られた労働力を有効に活用するため重要であるにもかかわらず、受け手の体制の未整備等から推進が図られなかった分野であり、一層の少子高齢化に対応するために必要である。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	事業の終期が訪れた後の姿を試算し、研修会で農業者に提示することで、事業に参加しなかった農業者にも啓蒙できる。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	限られた予算で産地全体に影響を及ぼすことが期待でき、民間の労働力も活用できるため効率的である。

(今後の課題)

・より効率的・効果的な外部委託の活用について検討する。 ・外部委託先の選択・活用が平易になるよう窓口の整備。

(次年度の方向性)

・得られた実証結果を基に、産地全体・他品目への拡大を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	

